



第 36 回 【2024 年度】
J I C T F
全 国 社 会 人 テ ニ ス
選 手 権 大 会

*** * * * *** P R O G R A M *** * * * ***

開 催 日: 2024年11月16日(土)・17日(日)

会 場: 兵庫県加西市「アオノテニスクラブ」

主 催: 一般社団法人日本社会人テニス連盟

後 援: 株式会社神戸新聞社

協 賛: ニホンターフメンテナンス株式会社

ヨネックス株式会社

開 催 趣 旨

一般社団法人日本社会人テニス連盟は、11月16日（土）・17日（日）の二日間、全国各地域から地域代表計14チーム、計約180名の社会人アマチュアテニスプレイヤーを迎え、「第36回（2024年度）JICTF全国社会人テニス選手権大会」を開催致します。

当法人の前身である日本社会人テニス連盟は、「社会人の、社会人による、社会人のための、テニス」をスローガンとして、平日は仕事に励み、休日等の余暇にテニスを楽しむ、いわゆる、社会人テニス愛好者・団体の為のテニス環境（行事・テニスコート施設・組織化・テニス交流・国際交流・広報等）を整備・充実する為に活動することを目的として、1986年10月14日に発足致しました。

以来、就中、行事において、前述記載の目的をもって、社会人テニスのハイレベルの地域大会を「JICTF社会人テニス各地域ゴールドリーグ戦」と称して開催し、更に、その各地域成績上位チームが参加し、一堂に会して社会人企業チーム全国No. 1を競う全国決勝大会＝「JICTF社会人テニス全国ゴールドリーグ王座決定戦」の開催を企画し、先ずその発足記念大会を1987年6月27日・28日「住宅都市・整備公団」新設中の「千葉ニュータウンスポーツパーク」において開催致しました。

同年、当時の海部俊樹文部大臣閣下より、この大会の趣旨にご理解を賜り、「文部大臣杯」が下賜され、同年10月17日・18日の両日、上記スポーツパークにおいて『文部大臣杯争奪』を大会名に冠し第1回大会を開催、その後同地で第2～6回を開催した後、1993年初めて会場を関東から関西へ移し、兵庫県加西市「アオノテニスクラブ」において、第7～31回を開催して参りました。また、第9回大会からは大会呼称を「JICTF全国社会人テニス選手権大会」に改称し、令和5年4月27日には一般社団法人日本社会人テニス連盟として法人化を行い現在に到っております。これまで計34回の大会開催にご協力・ご支援戴きました大会参加団体所属企業、大会参加選手並びに関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

本大会の出場権を競う「各地域ゴールドリーグ戦大会」には、多数の企業テニスチームの参加を得ております。即ち、本大会は、全国の働く社会人テニス愛好者・団体の全てが、そのアマチュア・テニス活動における最高の目標とするに値する大会として認められて来ています。

今回の第36回大会には、関東・北信越・東海・関西・北九州・南九州の全国六地域から、計14代表チームにご参加戴き、社会人企業チームNo. 1を競って戴きます。また、この全国大会においては、敗者チームに対しても、第1回戦／第2回戦において敗退しても、参加チームが公平にチーム対戦を行えるよう、順位決定戦を用意し、出来る限り交流・親睦の機会を提供することに致しております。全国の社会人テニスプレイヤーの代表が一堂に会し、全国大会を開催し、友好親善の機会を持つことは、極めて意義深く、各方面へ大きな波及効果を及ぼすことが期待されます。

本大会の下支えである「各地域ゴールドリーグ戦大会」に参加されたチーム全ての代表として、各参加チーム・選手の本大会での善戦健闘が期待されるところであります。

以 上

大会役員

大会会長 坂口 正純 [日本社会人テニス連盟 代表理事]

大会委員 高木 康年 堀田 省司 松村 敏治

大会顧問 滑川 琢也

大会競技委員長 牟田 史仁 [全国ゴールドリーグ実行委員長]

大会競技副委員長 松村 敏治 [関西ゴールドリーグ実行委員長]

堀田 省司 [北九州ゴールドリーグ実行委員長]

大会競技委員 行成 良夫 両角 賢一郎 嶋田 怜朗
松下 圭介 山本 利明 木下 翔二郎
小柳津 教之 宮代 龍 井上 修一
深井 圭 上澤 行成 今崎 真司
寺脇 大祐 廣田 達郎

レフェリー 牟田 史仁

大会事務局 坂口 正純 堀田 省司 高木 康年

牟田 史仁 松村 敏治

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

《各地域代表チーム一覧》

地域名	代表順	チーム名	出場回数
関東	I	三菱電機・関東	12
	II	本田技研工業	初
	III	三菱電機・湘南	5
北信越	I	Y K K	12
	II	松本市役所	21
東海	I	オーエスジー	15
	II	豊橋市役所	初
	III	アイシン	初
関西	I	大阪ガス	初
	II	三菱電機・関西	20
	III	大阪府庁	5
北九州	I	フンドーキン醤油	16
南九州	I	九州フィナンシャルグループ	7
	II	東京エレクトロン九州	6

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

《出場選手登録簿》 (1)

地域	関東 I	関東 II	関東 III	北信越 I
チーム名 (企業名)	三菱電機 関東	本田技研工業	三菱電機 湘南	Y K K
監督	行成 良夫	両角 賢一郎	嶋田 怜朗	松下 圭介
主将	五百蔵 優一	新井 郁矢	仁木 拓人	滝川 恵介
選手1	有村 仁孝	川越 亮	嶋田 怜朗	松下 圭介
2	家邊 聖治	長浜 拓	仁木 拓人	滝川 恵介
3	丹下 将太	吉川 史哲	後藤 準	長澤 秀悟
4	高山 元希	本多 智也	谷 亮祐	曾田 健一
5	杉山 智昭	齊藤 将之	今橋 望	伊藤 聖大
6	池川 浩史	佐藤 怜太	阪上 元規	中出 貴裕
7	志賀 正人	両角 賢一郎	吉岡 裕彬	辻内 克弥
8	行成 良夫	新井 郁矢	窪寺 恒太郎	
9	五百蔵 優一	金井 耀平	高山 慎一郎	
10		萩原 優幸		
11		千葉 陽貴		
12		菊居 龍之介		
13		甲斐 尚志		
連絡 担当者	行成 良夫	両角 賢一郎	嶋田 怜朗	松下 圭介

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

《出場選手登録簿》 (2)

地域	北信越 II	東海 I	東海 II	東海 III
チーム名 (企業名)	松本市役所	オーエスジー	豊橋市役所	アイシン
監督	奥原 裕司	野口 敏裕	小柳津 教之	宮代 龍
主将	三井 康弘	木下 翔二郎	坂神 脩亮	宮代 龍
選手1	奥原 裕司	野口 敏裕	坂神 脩亮	宮代 龍
2	三井 康弘	木下 翔二郎	森田 龍	宮本 司
3	小林 淳一郎	渡辺 勇人	松浦 佑弥	田中 裕一郎
4	古謝 彰貞	大倉 哲也	杉浦 康佑	和崎 省伍
5	加藤 健	太田 宏司	小柳津 教之	藤本 賢哉
6	丸山 大輔	安田 有賢	足部 義直	重松 拓弥
7	西澤 弘	島 康輔	釜元 将光	山田 大貴
8	小坂 俊輔	山口 雄矢	石渡 卓哉	増田 憲哉
9	柳原 一也	江坂 啓	土屋 孝一	
10	三澤 宜剛	冷水 悠人	渡辺 純平	
11	片桐 史門	河村 陸斗	野口 悟悠	
12	山本 利明		石島 健太郎	
13	中山 一溪		片山 理	
連絡 担当者	山本 利明	木下 翔二郎	小柳津 教之	宮代 龍

第36回 (2024年度)
JICTF 全国社会人テニス選手権大会

《出場選手登録簿》 (3)

地域	関西 I	関西 II	関西 III	北九州 I
チーム名 (企業名)	大阪ガス	三菱電機 関西	大阪府庁	フンドーキン 醤油
監督	井上 修一	福田 健司	山本 健二	今崎 真司
主将	熊本 篤	深井 圭	上澤 行成	岡部 純兵
選手1	井上 修一	田中 優之介	山本 健二	中井 雄也
2	熊本 篤	大田 空	上澤 行成	渡邊 智紀
3	山口 大晴	福田 健司	出川 勉	藤澤 浩輝
4	藤井 大貴	小清水 拓生	濱田 真嗣	福田 光
5	河合 謙吾	中村 秋河	花村 洋人	岡部 純兵
6	前田 和彦	黄 賢人	矢嶋 朋也	河内 健
7	生良 真隆	荒木 俊弥	森 慎也	梅野 寿輝
8	田中 翔馬	深井 圭	堀 徳嗣	松木 智之
9	吉田 健朗	仲川 憲吾	坂東 聖明	坂本 聖樹
10	今川 滉平	中筋 翔大	向井 正明	
11		坂本 大地	原 一智	
12			石神 誠人	
13			☆北口 和雅	
連絡 担当者	山口 大晴	深井 圭	矢嶋 朋也	矢田 晴孝

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

《出場選手登録簿》 (4)

地域	南九州 I	南九州 I
チーム名 (企業名)	九州 フィナンシャルグループ	東京エレクトロ 九州
監督	高島 英寿	廣田 達郎
主将	寺脇 大祐	吉田 俊幸
選手1	高島 英寿	廣田 達郎
2	寺脇 大祐	吉田 俊幸
3	江島 恒夫	西田 辰也
4	宮本 光	坪水 将士
5	本田 健人	坂田 敬祐
6	中山 和浩	前田 陽平
7	宮崎 翔馬	宮田 亮
8	田中 皓大	山本 周
9		阿久根 智志
10		山内 海斗
11		安藤 日向
12		
13		
連絡 担当者	寺脇 大祐	廣田 達郎

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

大会スケジュール

第1日 11月16日(土) (於:兵庫県加西市「アオノテニスクラブ」)

09:00 開会式

09:30 第1日 試合開始 本戦第1回戦

(12:30) " " 本戦第2回戦 & コンソレ

16:00 " 試合終了

18:00 懇親パーティー

第2日 11月17日(日) (於:兵庫県加西市「アオノテニスクラブ」)

09:00 第2日 試合開始 準決勝 & 順位決定戦

(12:00) " " 決勝 & 順位決定戦

15:00 " 試合終了 (予定)

15:30 閉会式 (予定)

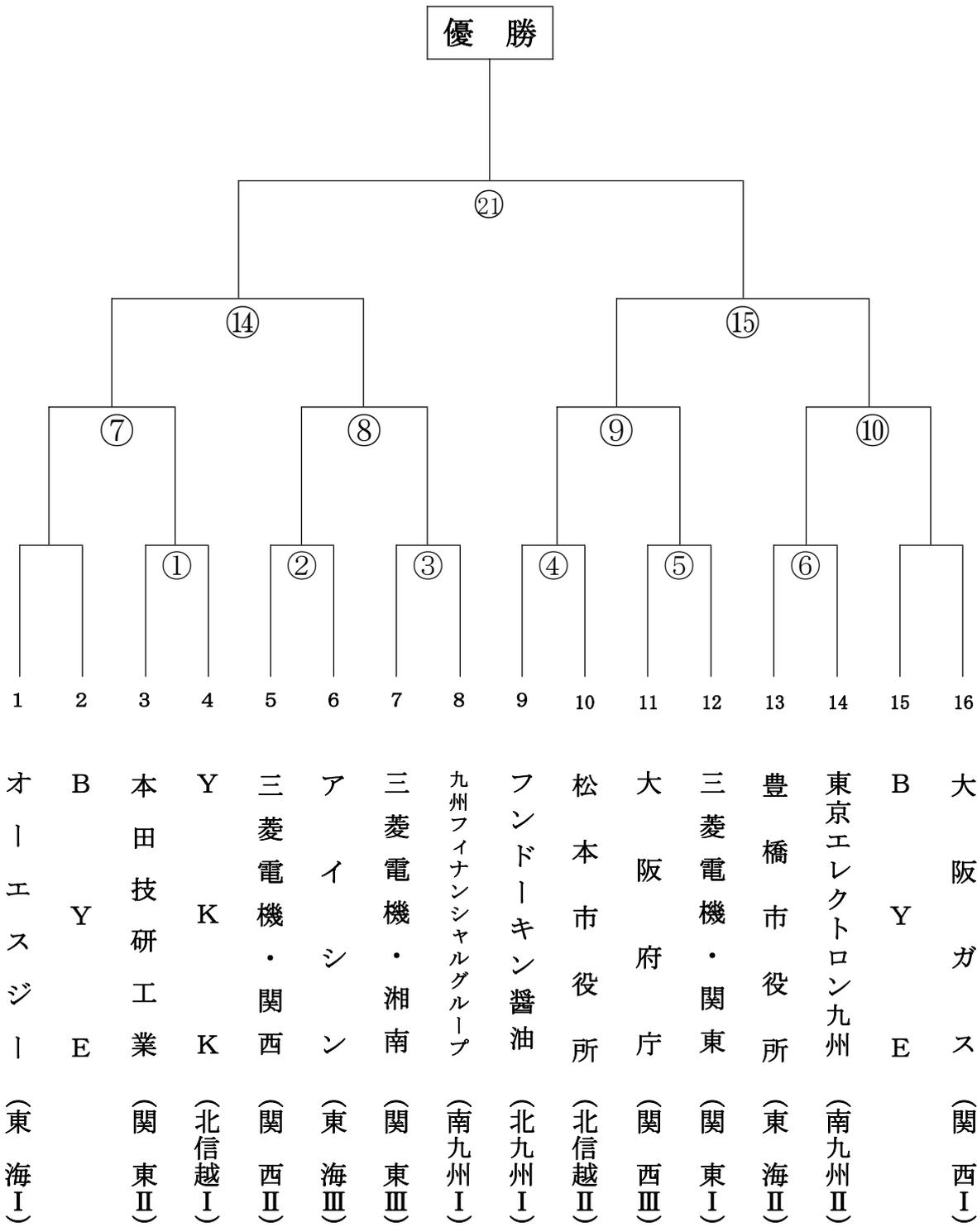
16:00 解散

注: 1. 上記スケジュールは、状況により変更することがある。

2. 雨天の場合、スケジュールを大幅に変更する。

第36回 (2024年度)
JICTF全国社会人テニス選手権大会

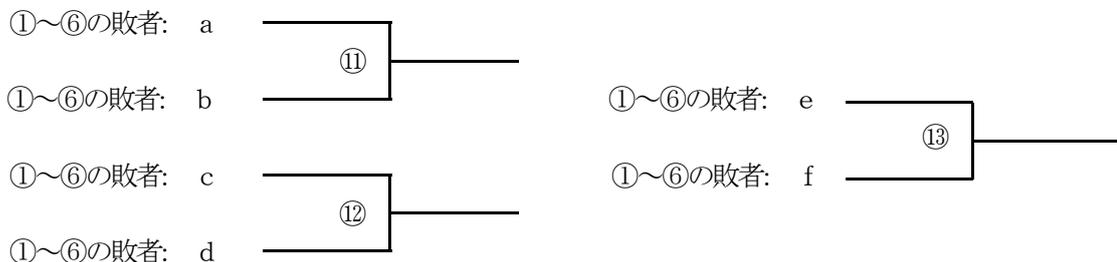
本戦トーナメント・ドロー



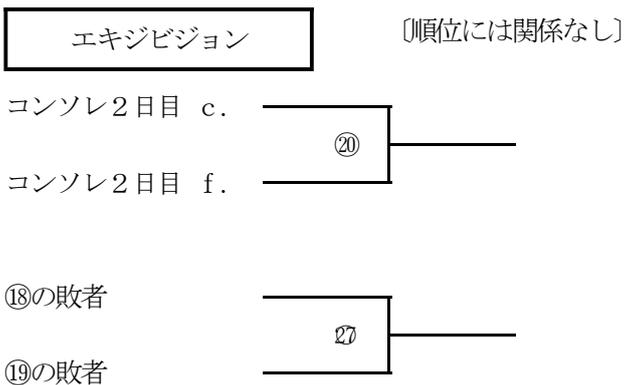
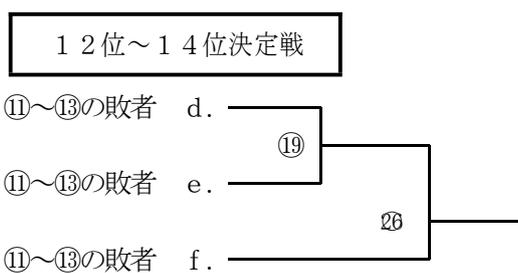
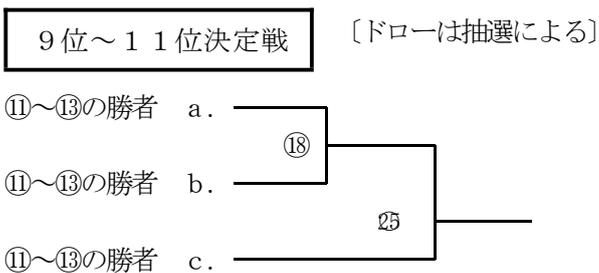
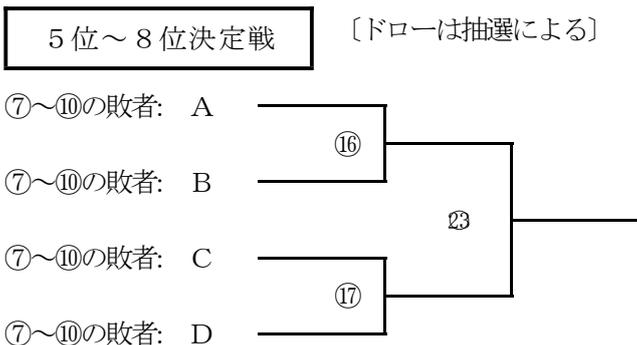
[本戦トーナメント以外の対戦]

【第1日】

コンソレイション (=9~14位順位決定戦・第一次) [ドローは抽選による]



【第2日】



9位~11位決定戦、12位~14位決定戦において、2勝したチームが出た場合は、2勝したチームに対する勝ち試合数（勝ち試合数が同数の場合は勝ちゲーム数）により順位を決定する。

第36回（2024年度）JICTF全国社会人テニス選手権大会

《時間割り／コート割り》

[第1日] 11 / 16 (土)

《第1ラウンド》 = [本戦1回戦]

Court → ↓ Time	1	2	3	6	7	8	4	5	9	10	11	16
09:30	① D1	D2	D3	② D1	D2	D3	③ D1	D2	D3	④ D1	D2	D3
10:30	S1	S2										

Court → ↓ Time	12	13	14	14	15	16	A	B	C	D
09:30	⑤ D1	D2	D3		練習		⑥ D1	D2	D3	練習
10:30	S1	S2			練習		S1	S2		練習

《第2ラウンド》 = [本戦2回戦：⑦・⑧・⑨・⑩] & [コンソレ・1回戦：⑪・⑫・⑬=第9～14位決定戦・第一次]

Court → ↓ Time	1	2	3	6	7	8	4	5	9	10	11	16
12:30	⑦ D1	D2	D3	⑧ D1	D2	D3	⑨ D1	D2	D3	⑩ D1	D2	D3
13:30	S1	S2										

Court → ↓ Time	12	13	14	14	15	16	A	B	C	D
12:30	⑪ D1	D2	D3		⑫ D1		⑬ D1	D2	D3	⑫ D2
13:30	S1	S2		D3	S1	S2	S1	S2		

第36回（2024年度）JICTF全国社会人テニス選手権大会

《時間割り／コート割り》

〔第2日〕 11 / 17（日）

《第3ラウンド》

⑭／⑮＝準決勝； ⑯／⑰＝5～8位決定戦・第一次

Court → ↓ Time	1	2	3	6	7	8	4	5	9	10	11	16
09:00	⑭ D1	D2	D3	⑮ D1	D2	D3	⑯ D1	D2	D3	⑰ D1	D2	D3
10:00	S1	S2										

⑱＝9～11位決定戦・第一次 ⑲＝12～14位決定戦・第一次・⑳＝エキジビション

Court → ↓ Time	12	13	14	14	15	16	A	B	C	D
09:00	⑱ D1	D2	D3		⑳ D1		⑲ D1	D2	D3	⑳ D2
10:00	S1	S2		D3	S1	S2	S1	S2		

《第4ラウンド》

21＝決勝 22＝3 / 4位決定戦 23＝5 / 6位決定戦 24＝7 / 8位決定戦

Court → ↓ Time	1	2	3	6	7	8	4	5	9	10	11	16
12:30	21 D1	D2	D3	22 D1	D2	D3	23 D1	D2	D3	24 D1	D2	D3
13:30	S1	S2										

25＝9～11位決定戦・第二次 26＝12～14位決定戦・第二次・27＝エキジビション

Court → ↓ Time	12	13	14	14	15	16	A	B	C	D
12:30	25 D1	D2	D3		27 D1		26 D1	D2	D3	27 D2
13:30	S1	S2		D3	S1	S2	S1	S2		

第36回 JICTF 全国社会人テニス選手権大会

大会実施要項

1. 主催：一般社団法人日本社会人テニス連盟
2. 主管：JICTF 全国社会人テニス選手権大会実行委員会
3. 後援：株式会社 神戸新聞社
4. 協賛：ニホンターフメンテナンズ 株式会社
ヨネックス株式会社
5. 開催日：2024年11月16日（土）・17日（日）
6. 会場：アオノテニスクラブ
兵庫県加西市油谷町639番地の3 Tel. 0790-45-1845
7. 大会形式：（チーム対抗戦）トーナメント方式。順位決定戦を行う。
8. 競技種目：全国六地域代表14企業チーム（男子）による“チーム対抗トーナメント”
チーム対チームの対戦は、各対戦共、ダブルス3試合+シングルス2試合、計5試合。
9. 大会使用球：ヨネックス製「ツアープラチナム」
10. 出場チーム：（辞退発生時は補欠枠から出場チームを決定することがある）

関東	〃	3	チーム
北信越	〃	1	〃
東海	〃	2	〃
関西	〃	3	〃
北九州	〃	2	〃
南九州	〃	2	〃
前年度優勝地域（東海）		1	〃
計： 14 チーム			
11. チームの出場資格：

連盟に団体加盟（年間登録費¥40,000/団体）している企業チーム（官公庁を含む）であって、2024年度JICTF全国社会人各地域（関東・北信越・東海・関西・北九州・南九州）ゴールドリーグ戦優勝或いは準優勝（地域によっては第3位）の成績を挙げたチーム及び前年度優勝チーム所属（＝東海）地域の次点チーム。

出場チームは、6名以上13名以内の同一企業に属する社員によって編成されていること。但し、その企業の関係会社の社員2名以内を含めることが出来る。この場合、その関係会社の社員によって編成された企業チームが当該地域ゴールドリーグ戦に1チームとして参加していないことを条件とする。

出場チームは、エントリーフィー¥120,000を連盟本部に納金する。
12. 選手の出場資格：

2024年度該当地域ゴールドリーグ戦に選手登録がなされている者。2024年度該当地域ゴールドリーグ戦後の新規登録選手或いは入れ替え登録選手は、認めない。
13. 選手登録：

出場チームは、6名以上13名以内の選手を「出場選手登録簿」に記載し、これを連盟本部事務局に提出すること。同一企業に属さない選手の登録は、前記第11項記載の通り。
14. 試合方法：

各試合8ゲームマッチ（8オール12ポイントタイブレイク）。各対戦ともダブルス1・2・3、シングルス1・2の順に試合を行う。（進行状況/コート使用の都合により、順序を変更することがある。）

3試合を勝った方をそのチーム対戦の勝ちチームとする。

14. 試合方法（続き）

1 対戦 5 試合全て実施する（原則）；但し、大会の進行状況により、チーム対戦の勝敗が決定した時点で、大会競技委員長の権限により、そのチーム対戦の残りの試合を打ち切ることがある。また、天候不順、使用コート面数変更等の状況変化に対応し、試合方法を大会実行委員会の決定により変更することがある。【例：一部又は全部の試合を 1 セット（＝6 ゲーム）マッチへ変える 等】

1 対戦において、2 人までのシングルス・ダブルス重複出場は、可とする。但し、同一選手のダブルス 2 回以上又はシングルス 2 回の出場は認めない。オーダーは、実力順或いは登録順を問わない。

15. 試合時間：

第 1 日：午前 9 時 30 分試合開始、日没まで。 第 2 日：午前 9 時試合開始、日没まで。

但し、両日とも、日没後でも、未消化の試合があった場合、屋外照明コート又はインドアコートで実施することがある。大会の進行は、スケジュール表に基づいて行う。

集合は、15 分前。時間厳守のこと。雨天の場合、或いは大会進行の必要上、上記の試合開始時間を変更することがある。

16. オーダーの交換&取り扱い：

試合開始 5 分前に、同一オーダー表 3 通を審判委員長に提出し、“認”印を受け、1 通を本部が保管し、もう 1 通は試合開始時に対戦両チームのキャプテンによるオーダー発表・オーダー交換用に、残る 1 通は自チーム控えとする。但し、“認”印の無いものは、無効とする。オーダー発表・オーダー交換の時点で、オーダー表記載のメンバーが欠席の場合、そのメンバーのポイントは、自動的に負けポイントとする（スコアは、0－8）。但し、チーム対戦終了時におけるメンバーの欠席は、この限りではない。

オーダー交換以前に棄権することが確定している場合には、ダブルス No. 3、ダブルス No. 2 の順に DEF. とすること。その際、相手チームのオーダー提出前に、審判委員長に報告し、相手チームの了解を得ることとする。

試合スタート時点で、オーダー表と異なった選手及び順番は、認めない。

オーダーは、対戦ごとに変更することが出来る。又、雨天等により延期の場合には、オーダーを変更することが出来る。

非登録選手が出場した場合は、判明した時点で、その試合は、相手チームの勝ちとし、その試合のスコアは、0－8 とする。

各対戦において、3 試合を先勝したチームは、（前述の規定に拘わらず）相手の同意を得て、残りの試合の出場メンバーを変更（当初のオーダーに含まれていない選手との入れ替えを含む）することが出来る。但し、優勝決定戦においては、この変更は出来ない。また、優勝決定戦は、止むを得ない事情がある場合を除き、5 試合全てを実施する。

17. 審判：

対戦チーム同士が交互に主審・副審を出して審判することを原則とする。

人員不足の場合、審判委員長が、他の参加チームの選手又は連盟関係者に、主審・副審を依頼する。止むを得ずセルフジャッジとすることがある。

トラブルが発生した場合は、審判委員長が判定を下すこととする。

18. レフェリー：

ルール及び遅刻その他に対するペナルティーについては、レフェリーを任命し、委任する。

19. 試合前のウォーミング・アップ：

5 分以内とする〔チェアアンパイアが計時する＝原則；チェアアンパイアを置かない場合、両チームの代表者（監督/主将又はその代理）が計時する〕。この規定の 5 分間が経過した時点から、大会運営委員長の権限において、「直ちに試合を開始するよう」命令することがある。この規定の 5 分間は、大会の進行状況により短縮することがある。

20. 試合時の障害 & ポイント

試合時のけいれん及びその他の障害についての休みは、10 分間 1 回とする。その時間以内に再起不能の場合は、“放棄ゲーム”とし、その試合は、0－8 で相手方の勝ちとする。

21. チーム対戦中の休憩時間：
チーム対戦において、第1／第2／第3試合に出場した選手が、次の試合（第4・第5にいずれか）に出場する場合は、先の試合の終了後、最大5分間の休憩時間を置くことが出来るものとする。これ以上の休憩時間は、原則として、認めない。
22. チーム対戦終了後の休憩時間：
チーム対戦が終了した時から次のラウンドのチーム対戦までの休憩時間は、原則として、10分間とする。これ以上の休憩時間が必要と考えられる場合は、大会運営委員長が、両対戦チームの代表者と協議し、決定する。
23. コーチ：
ベンチコーチは、1名のみとする。
24. 応援：
応援は、テニスのマナーに則って行うこと。ベンチコーチの役割と混同しないこと。
25. 試合の服装（シューズを含む）：
白を基調としたものに限定する。シャツに関しては、えり付きのシャツのみ可。
試合時のTシャツは、認めない。参加チームの選手全員が、そのチームのユニフォームを着用することが望ましい。
26. 順位の決定：
トーナメントにより、優勝・準優勝を決定する。第3位以下は、順位決定戦により、決定する。（天候不順、使用コート変更などの状況変化に対応し、順位決定戦を中止或いは中途打ち切りとすることがある。）
下位の順位決定戦において（総当たり）リーグ戦を実施した場合は、次の順序で順位を決定する：
①チーム対戦の勝ち数の多い方が上位
②勝ち試合数の多い方が上位
③勝ち負けゲーム総数合計に占める勝ちゲーム数合計の割合が高い方が上位
④直接対戦で勝った方が上位
27. チーム対戦結果の報告：
チーム対戦終了後、両チームの監督は、対戦結果を対戦結果表に記入し、確認署名し、勝ちチームの監督が、大会本部へ提出報告すること。
28. 雨天の場合：
会場の変更、試合のスケジュールの変更等は、試合会場において決定する。当日の試合開始予定時刻以前に変更を決定した場合は、大会本部から各参加チームへ連絡する。会場へ移動中の参加チームは、変更が予想される天候の場合、大会本部へ電話にて問い合わせること。
29. 大会の準備及び運営：
各参加チームから代表を1名ずつ出し、運営委員会を構成し、必要事項について協議し、決定する。運営委員会には、委員長1、副委員長2、競技委員2、審判委員2、記録委員2、会計委員2を置く。大会は、運営委員会が運営する。
30. その他：
その他、この大会実施要項に記載されていない事項については、前項規定による。
31. 連盟企画の国際交流テニス大会参加チームの選考対象：
本大会終了後、連盟が「国際交流テニス大会」を企画した場合、これに参加する「日本代表チーム」の第一候補として、本大会優勝チームを選考対象とする。準優勝チーム以下を順次選考対象とする。

以上

第36回 JICTF 全国社会人テニス選手権大会

大会注意事項

1. 「大会実施要項」第16項に従って、オーダー表を提出して下さい。
2. 受付で試合用ボールを受け取り、試合を行うコートについて確認して下さい。
〔大会使用球＝〔ヨネックス ツアープラチナム（連盟ロゴ入り）〕
（予定のコートを変更することがあります。）〕
3. 大会会場のテニスコート・サーフェイスは、サンドフィル人工芝です。コートサーフェイスに適したテニスシューズを使用して下さい。
4. 試合の服装は、白を基調としたものに限定しています（大会実施要項第25項）。
チーム対戦の挨拶／ウォーム・アップの時点から、これに従って下さい
5. チーム別に、ネットを挟んで整列し、監督又は主将同士がお互いにオーダーを交換の上、それぞれメンバーの紹介を行って下さい。
6. 試合の審判は、交互に出し合うか、セルフ・ジャッジとして下さい。
7. 試合前のウォーム・アップは5分以内（大会実施要項第19項）、コート・チェンジは90秒以内に行ってください。
8. 試合は全て、8ゲームマッチ（8ゲームズオール12ポイントタイブレイク方式で行います）。
9. 試合終了と次の試合開始との間の休憩時間、チーム対戦終了と次のチーム対戦との間の休憩時間は、大会実施要項第21項・第22項に従って下さい。スケジュール消化の時間短縮に出来得る限りご協力下さい。
10. 試合のポイント等で、もめごとが起きた場合は、当事者間で紳士的に解決して下さい。解決せず試合を続行出来ない場合は、受付を通し、レフェリーに連絡して下さい。
11. プレーヤーが、試合中、身体の不調（怪我、痙攣、肉離れ、目まい、まめ、等）の為に試合を続行出来ない時は、「大会実施要項」第20項に従い、1回に限り、10分間の試合中断を認めます。
12. 試合のラリー中、コートサイド或いはコートの後ろを誰も通らないようにして下さい。
13. 対戦終了後、両チーム共ネットの両側に整列して、対戦終了の挨拶をして下さい。
その後、両チームでスコアを再確認の上、試合結果を「試合結果表」に記入し、両チームの代表者が確認の署名をした上で、勝者チームが受付に報告・提出して下さい。
14. 試合に使用したボールは、勝者チームが受付に返却して下さい。
15. コート内は、禁煙とします（タバコの煙等が嫌いな人の為）。喫煙は、コートの外の所定のところで、吸殻を散らかさないように、お願いします。
16. 昼食の時間は、大会進行の都合上、特に設けません。選手は、大会進行を見ながら、大会進行に支障を来たさないように、適宜昼食を摂って下さい。

大会本部： アオノテニスクラブ TEL. 0790-45-1845
FAX. 0790-45-1848
〒675-2404 兵庫県加西市油谷町639番地の3

本部事務局： 一般社団法人日本社会人テニス連盟・本部事務局
TEL. 090-7291-7955 FAX. 096-389-2663
〒861-8038 熊本県熊本市東区長嶺東3-5-9

以上

日本社会人テニス連盟主催
JICTF 全国社会人テニス選手権大会
 (旧称：JICTF社会人テニス全国ゴールドリーグ王座決定戦)

歴代出場チーム & 成績一覧 (1)

地域	第〇回→ チーム名↓ 年度→	発足 記念	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	通 算
			87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	
北海道	航空自衛隊千歳				10													1
	札幌市役所				11		8	13	5	9								5
	北海道電力					6												1
	北海道教職員					7	9	9		8	11				15	12	6	8
	日本製紙								8			9	6	10	13	4	5	7
東北	ソニー・マク ^ク ネ・Prod.	4	8															2
	七十七銀行			9		8	6	8										4
	ナショナル・ライフ保険				12													1
関東	富士通・本社	3					4	11	12									4
	東レ		2	2														2
	トッパ ^ン ・ム ^ー ア		7	5			7											3
	東日本旅客鉄道				3			4										2
	富士通・川崎				6	11		11			5							4
	木野テント工業					9												1
	東芝								4	4	8	3	11	15	11	5	9	9
	三菱電機・関東									2		4	3	2	3		2	6
	千葉市役所															16		1
北信越	松本市役所							7	9									2
	長野日本無線							10										1
	シメオ精密								7	6	3	2	4	3	2	3		8
	長野県庁									12								1
	セイコーエフ ^ソ ン										7	5			14		13	4
	新光電気工業												9	12		6	10	4
東海	加納	2																1
	中部電力		5												6	8		2
	三井物産		6															1

☆＝優勝 ; 「通算」欄の数字＝出場回数 ; その他の数字＝大会成績順位

日本社会人テニス連盟主催
JICTF全国社会人テニス選手権大会
 (旧称：JICTF社会人テニス全国ゴールドリーグ王座決定戦)

歴代出場チーム & 成績一覧 (2)

地域	第〇回→ チーム名↓ 年度→	発 足 記 念	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	通 算	
			87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01		
東 海	豊田合成			7	8	10		14			9							5	
	東レ				7	5	5	6	10				8					6	
	豊田中央研究所						12											1	
	名古屋市役所									11		10	7					3	
	三菱電機・中部									10	13				12	11	11	5	
	アイセロ化学											14		8				12	3
	三菱重工業・N																13		1
関 西	三菱電機・関西	☆			☆	3	2											4	
	N T T・神戸		3	3	2	2		2	3	5	☆	7	12	11	10			12	
	ワールド		☆	☆			3	3	2	☆	2	☆	☆	☆	☆	☆	☆	13	
	松下電器産業		4		3	☆	☆	☆	☆		4		5	5				9	
	富士火災海上			4														1	
	関西電力									7		6						2	
	大阪府庁														9		9	2	
	シャープ																7	1	
	近畿コカ・コーラ B.																2	3	2
中 国	広島市役所										10			7				2	
	エヌ・イー・サポート											8	2	4	4			4	
	マツダ														16			1	
	広島銀行															14		1	
	三菱重工業広島															15	15	2	
北 九 州	九州松下電器			6														1	
	福岡銀行				9	4	10	5	11			12	13	13	7	8	8	11	
	新日本製鐵八幡									3	6	11		15				4	
	福岡県庁															10		1	
	安川電機																16	1	
南 九 州	熊本市役所			8	5	12	11	12			12							6	
	熊本大学教職員								6	13		13						3	
	熊本ファミリー銀行												10		5	9	4	4	
	熊本県庁												14					1	
	ヤマックス													9	6			2	
	県歯科医師会																	14	1

☆=優勝 ; 「通算」欄の数字=出場回数 ; その他の数字=大会成績順位

日本社会人テニス連盟主催 「JICTF全国社会人テニス選手権大会」

歴代出場チーム & 成績一覧 (3)

地域	チーム名↓ 年度→	第○回→															通算
		16 02	17 03	18 04	19 05	20 06	21 07	22 08	23 09	24 10	25 11	26 12	27 13	28 14	29 15	30 16	
北海道	北海道教職員	10	13	14													11
	日本製紙	8															8
	苫小牧市役所		16	15													2
関東	富士通・本社										7	11	13	11	10		8
	東芝	4	9														11
	UFJ銀行	15	4														2
	マツネ			2	3												2
	三菱電機 Eng.			4	4	8	12	12									5
	全日空システム企画					10		11									2
	川口市役所						☆	2	2	2							4
	流山市役所								14			14					2
	リガク									15							1
	ソニー・本社													14			1
	三菱電機・鎌倉														14		1
	全日空商事															8	初
三菱電機・関東															14	7	
北信越	松本市役所	13	15	12	9			14	10	14	11	12	11	13	11	12	15
	セイコーエフソン	6	10	7		7	8										8
	山洋電気				7												1
	インテック					14											1
	YKK								6	12	13	13	14	7	6	13	8
東海	中部電力			8		5											5
	名古屋市役所	11			11												5
	三菱電機・中部	7	5	6			6	6								5	11
	アイゼロ化学		8														4
	ブラザー工業				6												1
	三菱化学・四日市					4		3									2
	オーエスジー						11		7	6	5	☆	2	2	2	☆	9
	豊田通商								15				8				2
三菱自動車岡崎									7	9	10	12	12	4		6	
関西	三菱電機・関西	3		5	2	2		3	3	3	3	☆	☆	☆	3		15
	ワールド	☆	☆	☆	☆	☆	2	☆	☆	☆							22
	関西電力		3			3	3	4				9	4	3	12		10
	コカ・コーラウエスト	2	2	3	5		7		5	11	☆	4			3	4	13
	大阪府庁										12						3
	阪急電鉄												4				1
	パナソニック															10	10
中国	マツダ		14		13					13			7				6
	三菱重工業・広島	14		13		11	14	8	11		10	6	6	9	7	9	14
	三菱化学・水島						9	10	12	5							4
北九州	FFG福岡(福岡銀行)	8	6	10		9	10	5	8	9	4	5	10	8	8		24
	新日本製鐵八幡				14												5
	福岡県庁		12		8	12										7	5
	フンドーキン醤油						5	7	9	8	6	7	5	6	5	2	10
三菱電機・九州										8						1	
南九州	FFG熊本(熊本銀行)	9	7	9	12	6	4	9	4	4	2	2	3	5	13	6	19
	県歯科医師会	12	11														3
	三菱電機・熊本			11	11	13											3
	東京エレクトロン九州						13	13	13	10	14						5
	肥後銀行											8	9	10	9		4
熊本県庁															11	2	

☆=優勝 ; 「通算」欄の数字=出場回数 ; その他の数字=大会成績順位

日本社会人テニス連盟主催 「JICTF全国社会人テニス選手権大会」

歴代出場チーム & 成績一覧 (4)

地域	チーム名↓ 年度→	第〇回→						通算
		31 17	32 18	33 19	34 22	35 23	36 24	
関東	三菱電機・関東	5	6	7		6	○	12
	富士通・本社	9	☆	3	5			12
	三菱電機・湘南			11	11	10	○	5
	本田技研工業						○	初
北信越	松本市役所	11	14	13	10	11	○	21
	Y K K			12			○	12
東海	オーエスジー	☆	3	☆	☆	☆	○	15
	三菱電機・中部	13	5	2	3	7		16
	三菱ケミカル四日市	6						3
	三菱自動車岡崎		7					7
	名古屋市役所				12			6
	日本ガイシ					12		1
	豊橋市役所						○	初
	アイシン						○	初
関西	コカ・コーラウエスト	2						14
	パナソニック	4						11
	三菱電機・関西		4	6	2	2	○	20
	関西電力		11	8				12
	阪急電鉄				8			2
	大阪府庁					8	○	5
	大阪ガス						○	初
中国	三菱重工業・広島	10	13					16
	マツダ	14	12	14				9
北九州	フンドーキン醤油	3	2	4	4	3	○	16
	F F G 福岡	9		5		4		27
	新日鐵住金八幡		8					6
	福岡市役所				9			1
南九州	F F G	7	9	9				22
	九州電力・熊本	8		10	6	9		4
	熊本赤十字病院		10					1
	九州フィナンシャルグループ				7	5	○	7
	東京エレクトロン九州						○	6

☆=優勝 ; 「通算」欄の数字=出場回数 ; その他の数字=大会成績順位

J I C T F 日本社会人テニス連盟

一般社団法人日本社会人テニス連盟 Japan Inter-Company Tennis Federation

当法人の前身である日本社会人テニス連盟は、「社会人の、社会人による、社会人のための、テニス」をモットーに、1986年10月14日に発足、すでに創立以来四半世紀を経過しています。これまでの日本社会人テニス連盟の歩みを、主要行事に絞って、振り返ってみます：

〔I〕連盟発足記念「JICTF社会人テニス・王座決定戦」

1987年 6月27日・28日 於：千葉ニュータウンセンター 優勝：三菱電機(株)

〔II〕「文部大臣杯争奪JICTF社会人テニス・全国ゴールドリーグ王座決定戦」

⇒ (第9回大会より改称) 「文部大臣杯争奪JICTF全国社会人テニス選手権大会」

第1回	1987年10月17日・18日	於：千葉ニュータウンスポーツパーク	優勝：(株)ワールド	(関西)
第2回	1988年11月 5日・ 6日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第3回	1989年11月 3日～ 5日	於： "	優勝：三菱電機(株)	(関西)
第4回	1990年11月16日・17日	於： "	優勝：松下電器産業	(関西)
第5回	1991年10月17日・18日	於： "	優勝：松下電器産業	(関西)
第6回	1992年11月14日・15日	於： "	優勝：松下電器産業	(関西)
第7回	1993年11月13日・14日	於：兵庫県加西市アオノテニスクラブ	優勝：松下電器産業	(関西)
第8回	1994年11月19日・20日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第9回	1995年11月18日・19日	於： "	優勝：N T T 関西	(関西)
第10回	1996年11月16日・17日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第11回	1997年11月23日・24日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第12回	1998年11月21日・22日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第13回	1999年11月20日・21日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第14回	2000年11月25日・26日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第15回	2001年11月24日・25日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第16回	2002年11月23日・24日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第17回	2003年11月23日・24日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第18回	2004年11月20日・21日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第19回	2005年11月19日・20日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第20回	2006年11月18日・19日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第21回	2007年11月17日・18日	於： "	優勝：川口市役所	(関東)
第22回	2008年11月15日・16日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第23回	2009年11月14日・15日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第24回	2010年11月13日・14日	於： "	優勝：(株)ワールド	(関西)
第25回	2011年11月12日・13日	於： "	優勝：コカ・コーラウエスト(株)	(関西)
第26回	2012年11月17日・18日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)
第27回	2013年11月16日・17日	於： "	優勝：三菱電機(株)	(関西)
第28回	2014年11月15日・16日	於： "	優勝：三菱電機(株)	(関西)
第29回	2015年11月14日・15日	於： "	優勝：三菱電機(株)	(関西)
第30回	2016年11月12日・13日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)
第31回	2017年11月18日・19日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)
第32回	2018年11月17日・18日	於： "	優勝：富士通(株)	(関東)
第33回	2019年11月16日・17日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)
第34回	2022年11月12日・13日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)
第35回	2023年11月18日・19日	於： "	優勝：オーエスジー(株)	(東海)

〔Ⅲ〕「JICTF全国社会人テニス・全国ゴールドリーグ」東西対抗戦

第1回	1986年10月25日	於：昭和の森テニスクラブ	優勝：(株)ワールド	(関西)
(=連盟発足記念大会・4チームリーグ戦)				
第2回	1988年 5月 7日・8日	於：千葉ニュータウンスポーツパーク	西軍 23-1	東軍
(この回から東西対抗戦：単12+複12=計24試合)				
第3回	1989年 4月29日・30日	於：	西軍 18-6	東軍
第4回	1990年 4月29日・30日	於：	西軍 20-4	東軍
第5回	1991年 4月28日・29日	於：	西軍 10-2	東軍

〔Ⅳ〕「JICTF社会人テニス・フォーラムカップ」全国決勝大会

第1回	1987年12月13日	於：南市川テニスクラブ	優勝：天王寺テニスクラブ	(関西)
(初回のみ「フェデレーションカップ」と呼称)				
第2回	1988年 8月13日・14日	於：南市川テニスクラブ	優勝：おおぶテニスクラブ	(東海)
第3回	1989年 9月23日・24日	於：千葉ニュータウンスポーツパーク	優勝：よせなベテチーム	(東海)
第4回	1990年 9月23日・24日	於：	優勝：三宝伸銅チーム	(東海)

〔Ⅴ〕国際友好親善社会人テニス大会

第1回	1988年 9月16日	「第1回日本・中国友好社会人テニス大会」 於：上海市徐江网球場	成績：日本4-9中国
第2回	1989年11月23日	「第2回日本・中国友好社会人テニス大会」 於：上海市跳水池网球場	成績：日本6-13中国
第3回	1990年 1月23日	「第1回日本・豪州社会人親善テニス大会」 於：豪州マルヴァーン市クーヨンテニスクラブ	成績：日本3-6豪州
第4回	1990年 6月16日	「第3回日本・中国友好社会人テニス大会」 於：千葉ニュータウンスポーツパーク	成績：日本5-10中国
第5回	1990年10月 7日	「1990日米中ソ親善テニス大会」(外務省+米中ソ大使館対象) 於：高輪テニスセンター	
第6回	1990年11月23日	「第1回日本・マレーシア友好社会人テニス大会」 於：クアラ・ Lumpur 市 Johor テニスセンター	成績：日本10-2マレーシア
第7回	1991年10月 6日	「1991日米中ソ親善テニス大会」(外務省+米中ソ大使館対象) 於：高輪テニスセンター	
第8回	1992年10月 4日	「1992日米中露親善テニス大会」(外務省+米中露大使館対象) 於：高輪テニスセンター	
第9回	1993年10月 3日	「1993日米中露親善テニス大会」(外務省+米中露大使館対象) 於：高輪テニスセンター	
第10回	1995年12月10日	「第1回日本・台湾交流社会人テニス大会」 於：台湾・台北市圓山飯店	成績：日本9-2台湾
第11回	1996年 8月25日	「第1回日本・シンガポール交流社会人テニス大会」 於：シンガポール・SICC	成績：日本14-15シンガポール
第12回	1998年5月9-10日	「第1回日本・韓国交流社会人テニス大会」 於：韓国・大邱広域市	成績：日本17-22韓国
第13回	2006年4月22日	「第1回日中友好社会人テニス大会 in 大連」 於：中国・大連市	優勝=日本代表チーム 準優勝=中国代表チーム 第3位=大連在住日本人チーム 第4位=日本社会人親善チーム
第14回	2014年 6月 8日	「第2回日本・台湾交流社会人テニス大会」 於：台湾・台北市圓山飯店	【雨天のため5対戦で打ち切り】 成績：日本3-2台湾
第15回	2015年 6月21日	「第3回日本・台湾交流社会人テニス大会」 於：台湾・高雄市	成績：日本7-10台湾
第16回	2019年 6月15日	「第2回日中友好社会人テニス大会 in 大連」 於：中国・大連市	成績：日本7-9中国

〔VI〕 「JICTF全国女子企業チーム東西対抗戦テニス大会」

第1回	1996年11月17日	於：兵庫県加西市アオノテニスクラブ	優勝：松下電器産業
第2回	1998年2月1日	於：三菱電機株・鎌倉製作所コート	優勝：シャープ

〔VII〕 「JICTF全国女子企業チームテニス選手権大会」

第1回	1999年2月27・28日	於：静岡県伊東市リゾートホテルロビング	優勝：近畿コ・コーポB.
第2回	2000年2月19・20日	於：千葉県白子町サニーインむかい	優勝：松下電工
第3回	2001年4月5・6日	於：静岡県伊東市リゾートホテルロビング	優勝：松下電器産業
第4回	2002年4月6・7日	於：静岡県伊東市リゾートホテルロビング	優勝：松下電器産業
第5回	2003年3月22・23日	於：静岡県伊東市リゾートホテルロビング	優勝：松下電器産業

以上が、日本社会人テニス連盟が創立以来現在までに開催した主要な大会であります。社会人テニス愛好者・団体の皆様の要望を出来るだけ満たすべく企画、実施したものであります。

連盟は、上記の実績を踏まえ、令和5年4月27日に一般社団法人へと法人化いたしました。一層の発展・充実を期して前進して参ります。今後とも皆様の温かいご支援・ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上

J I C T F 日本社会人テニス連盟

日本社会人テニス連盟 Japan Inter-Company Tennis Federation

設立趣旨

我が国において、テニスは、数多くのスポーツの中でもその普及度が最も高いスポーツの一つで、テニス人口は1,300万人以上とも言われ、最も幅広い年齢層に親しまれており、最も人気のあるスポーツの一つとなっています。又、これから始めてみたいスポーツの第一位に挙げられています。

時代は、今まさに21世紀を迎えようとしており、勤勉をもって鳴る日本の社会にも、やがて欧米並みに週休二日制が全国的に普及するものと予想されています。こうした時代の動向と余暇の在り方を先取りし、多くの社会人に、健康の維持・増進、精神衛生・ストレス解消の場、そして汗を流しつつ心と心の触れ合う社交の機会、更に「生涯スポーツ」として取り組むことの出来る環境を提供することが望まれています。世界のテニス界は、プロ化の傾向が益々強まって来て、マスコミにおいては、アマチュアテニスにはあまり陽の当たらない感がありますが、一方では、健康性・社交性・日常性・普及度において、テニスは、「生涯スポーツ」として取り組むに最も適したスポーツの一つとして、多くの人々の関心が向けられて来ているのであります。

こうした傾向の中で、通常土曜・日曜・祭日等の余暇にしかテニスを楽しむことが出来ないという宿命にある社会人テニス愛好者及び社会人テニス愛好団体にとって、そのテニス環境（競技会等の行事・テニスコート施設・組織化・テニス講習・国際交流・広報等）を整備・充実し、豊かなテニスライフを可能とする、独自の存在形態並びに活動形態が確立される必要があります。

仕事を持つ社会人は、コート不足、レベルの地域格差など、幾多の問題を抱えています。それは、国や社会や企業自体の社会人テニスに対する理解度がまだまだ低いことなどに大きな原因があるかと思われまます。

このような背景の下、問題点を一つ一つ解決して、社会人テニス、引いては、日本のテニス界の発展・向上に貢献すべく、“社会人の、社会人による、社会人のためのテニス”を目指して、「日本社会人テニス連盟」を設立するものであります。

社会人が余暇にテニスを楽しむことは、その健康自己管理能力の向上・医療費の削減・欠勤率の減少・仕事の生産性の向上といった成果をもたらし、企業にとっては、従業員としての社会人のこうした“個人の活性化”は企業自体の活性化に繋がり、無視出来ない間接的利益を生むものであります。又、社会人は、日本における幅広い年齢層から成るテニス人口の大部分を占めており、社会人テニスの充実・発展は、日本のテニス界の将来に大きく寄与するものであると確信致します。

全国を北海道・東北・北信越・関東・東海・関西・中国・四国・中国・九州の九地域に分けて、各地域に地域連盟を結成し、各地域の社会人テニスの充実・発展に取り組みます。

各方面の企業・官庁・銀行・商店・文化人・在日外国人の方々のご理解並びにご加盟を期待するものであります。

以上

〔1986年10月14日〕

一般社団法人日本社会人テニス連盟はその前身である日本社会人テニス連盟の設立趣旨を継承しています。

「各地域ゴールドリーグ戦」の開催目的

1. 閉鎖性の打破

テニスは、相手が一人でも、即ちたった二人でも楽しめるスポーツです。従って、内輪で楽しむことが多く、外へ出て別な人達とテニスをするには、積極的な姿勢又は強制的システムが無ければ、外へはなかなか出ないという日常性が身に付いてしまいます。企業の中のメンバーが集まった企業チームの対抗戦として「地域ゴールドリーグ戦」への参加によってこうした閉鎖性を打破することが出来ます。

2. 交流範囲の拡大

外へ出ることによって、社会人テニス愛好者間の交流範囲が広がります。しかしながら、外へ出たとしても、その回数が少なくなれば、交流の範囲が限られてしまいます。例えば、トーナメント形式の大会参加においては、1回戦で負ければ、それでその大会での交流の機会は御仕舞いになります。「地域ゴールドリーグ戦」は、いわゆるリーグ戦形式すなわち総当り戦を行うことにより、交流範囲の枠を大きくしています。

3. 定期性の保持

毎年4月乃至6月から数ヶ月に亘ってリーグ戦を開催することにより、定期性を保持しています。これにより、参加しに健康志向の下での余暇活動の機会を提供しています。このことは、ひいては、健康増進（→医療費の削減・欠勤率の低下／勤労意欲の向上等）につながり、個人の活性化・企業の活性化・社会の活性化に寄与することとなります。

4. テニスレベルの向上

以上の、閉鎖性の打破・交流範囲の拡大・定期性の保持は、結果として、テニスにおける自分の実力・他人の実力、自チームの実力・他チームの実力を知らしめ、向上意欲を刺激します。この点は、1回負けたらそれでお終いとなるトーナメント形式に優るリーグ戦形式により多く期待できる効果であり、「地域ゴールドリーグ戦」がリーグ戦形式を採っている所以であります。

又、社会人が、上記の特徴を有する大会に参加し、テニスを「生涯スポーツ」として楽しむ姿を子供達に披露することは、子供たちの目をテニスに向けて開かせ、長期的観点に立つ時、テニス界の発展に大きく寄与することと言えます。

「全国社会人テニス選手権大会」の開催目的

1. 社会人テニス愛好者・愛好団体に「励み」・「遣り甲斐」を与える。

「各地域ゴールドリーグ戦」の開催によって、閉鎖性の打破・交流範囲の拡大・定期性の保持・テニスレベルの向上を相当程度達成することが可能ですが、これを全国決勝大会に結びつけることで、各地域の大会に参加する社会人テニス愛好者・愛好団体に、大きな「励み」・「遣り甲斐」を与えるべく、「全国社会人テニス選手権大会」を毎年開催いたします。

通常、会社勤務等のため、土・日・祭日等の余暇にしかテニスを楽しむことが出来ない宿命にある社会人テニス愛好者・愛好団体が、そうした宿命の中で、「生涯スポーツ」としてテニスに取り組み、更に、地域大会から全国大会を目指すことに大きな意義が有り、参加者・参加団体に一層の「励み」・「遣り甲斐」そして充足感を与えるものであります。

2. 日本の“真の社会人アマチュアテニス”の頂点到達を競う全国大会

「各地域ゴールドリーグ戦」⇒「全国社会人テニス選手権大会」という大会形式により、上述の宿命にある社会人テニス愛好者・愛好団体が、“真の社会人アマチュアテニス”の頂点到達という名誉を競う独自の大会を開催します。

テニスにも、存在形態としてプロ、セミプロ、アマチュアの形態がありますが、プロやセミプロと異なり、一般の会社員と同等の待遇の中で、「生涯スポーツ」として健康志向によりテニスに取り組む者達の存在形態を、このような形式で明確化することにより、テニスの振興に貢献します。

3. 社会人アマチュアテニスの存在のアピール

全国各地域から代表チームが集う全国大会として「全国社会人テニス選手権大会」を開催することにより、社会人アマチュアテニスの存在を世にアピールし、その結果、各界の支持・支援が増大し、社会人テニス愛好者・愛好団体のテニス環境を更に豊かにすることが期待出来ます。

一般社団法人日本社会人テニス連盟

本部事務局

〒861-8038

熊本県熊本市東区長嶺東3-5-9

TEL. 090-7291-7955

FAX. 096-389-2663

E-mail: j-i-c-t-f-7@jcom.zaq.ne.jp



一般社団法人
日本社会人テニス連盟